

(計画期間:令和6(2024)～8(2026)年度)

ビジョン

高齢者が健康で生涯現役を目指し、自分らしく安心して、
人生100年時代を幸福に暮らすことができるまち

【ビジョンの進捗状況を確認する指標】 幸福度の高い高齢者の割合 (R8年度目標 55%) R4:52.9% → R7:51.0%

目 標

施策の方向性

1 目指そう活力ある100年 ～ 健康長寿 ～

- 人や社会とつながり続け、
役割をもって活躍できる機会の創出
- 生涯を通じた健康づくり・介護予防

2 人情息づく支えあいのまち ～ 地域共生社会 ～

- 人のつながりが幸せや安心を生む
支えあいの地域づくり
- 認知症にやさしいまちづくり
(北九州市認知症施策推進計画)
- 尊厳のある自分らしい暮らしを守る
権利擁護の推進(北九州市成年後見制度利用促進計画)
- 介護者(ケアラー)のサポート

3 選べる自由が感じられる多彩なケア ～ 安全・安心・自己決定 ～

- 不安を安心へ
- 介護サービス等の提供体制の充実
及び介護保険制度の安定した運営
- 安全・安心に暮らし続けられる環境づくり

主な成果指標

【目標】 【R4】 【R7】

過去1年間に地域活動等に 「参加したことがある」人の割合	30 %	25.1 %	26.0 %
65歳以上で就労している人の割合	増加	20.9 %	20.2 %
健康づくりや介護予防のために取り 組んでいることが「ある」人の割合	63 %	59.6 %	52.7 %
通いの場に参加した人の割合	23 %	19.3 %	22.9 %
困ったときに助けあえる人が 近所にいる高齢者の割合	30 %	22.4 %	27.2 %
積極的に社会貢献したい」または 「自分のできる範囲で社会貢献した い」高齢者の割合	増加	65.5 %	66.2 %
認知症と聞いて、「家族に迷惑を かけそうで心配である」人の割合	減少	53.9 %	51.9 %
成年後見制度について「よく知って いる」「少し知っている」人の割合	増加	47.9 %	48.4 %
要介護者に対して「虐待などに至る 危険性はない」と感じている介護者 の割合	増加	44.3 %	45.0 %
家族の介護について「負担である」と 考える人の割合	減少	40.3 %	43.2 %
地域包括支援センターの認知度	増加	43.6 %	42.4 %
終活についてすでに準備している 高齢者の割合	増加	20.5 %	17.4 %
介護保険制度について、「よい」または 「どちらかと言えばよい」人の割合	増加	93.6 %	93.2 %
介護職員が充足していると感じる事 業者数	増加	38.7 %	41.3 %
外出や移動のときに「特に困っている ことはない」人の割合	増加	52.8 %	53.3 %
避難行動要支援者の個別避難計画作 成率	85 %	57.7 %	61.2 %

分野別会議での意見及び取組状況からの課題

- 社会貢献したい意向がある高齢者が約6割いる一方で、地域活動等への参加が伸びていない
- 企業における高齢者人材の活用や働き続けられる環境の整備が十分でない
- 健康づくり等に取り組んでいる人の割合が伸びていない
- 介護予防事業に参加する高齢者が広がっていない
- フレイルリスクが高い高齢者を十分に介護予防活動につなげられていない

- 見守り等支援活動の担い手不足とつながりの希薄化が進んでいる
- 地域課題を地域全体で支える仕組みの強化が求められている
- 孤独・孤立や複雑・複合化した課題への早期対応が求められる

- 「新しい認知症観」に立った施策の推進が求められている
- 予防可能なMC I（軽度認知障害）に対する取組が現プランに位置付けられていない

- 頼れる身寄りがいない高齢者等の支援事業や成年後見制度の法改正等の施行に向けた支援体制の見直しが必要

- 介護の負担感や多様な課題を抱えた家族介護者に対応した支援が十分でない

- 頼れる身寄りがいない高齢者等の支援体制が十分でない
- 終活についてすでに準備している高齢者の割合が増加していない
- 予防ケアプラン作成等の介護予防ケアマネジメントの負担軽減

- 介護人材不足の深刻化に対応するための介護サービスの質の向上と持続可能性の確保
- 後期高齢者の増加に伴う介護需要への対応

- 日々の買い物に困難を抱えた高齢者等の「買い物弱者」の課題が地域に広がりつつある
- 避難行動要支援者の個別避難計画作成率が低い